

# 第1章

## 高齢化の状況

### 第1節 高齢化の状況

#### 高齢化の現状と将来像

##### ○高齢化率が23.3%に上昇

- ・我が国の総人口は平成23（2011）年10月1日現在、1億2,780万人（表1-1-1）。
- ・65歳以上の高齢者人口は過去最高の2,975万人（前年2,925万人）。
- ・65歳以上を男女別にみると、男性は1,268万人、女性は1,707万人で、性比（女性人口100人に対する男性人口）は74.3。
- ・総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は23.3%（前年23.0%）。
- ・「65～74歳人口」（前期高齢者）は1,504万人、総人口に占める割合は11.8%。
- ・「75歳以上人口」（後期高齢者）は1,471万人、総人口に占める割合は11.5%。

表1-1-1 高齢化の現状

単位：万人（人口）、%（構成比）

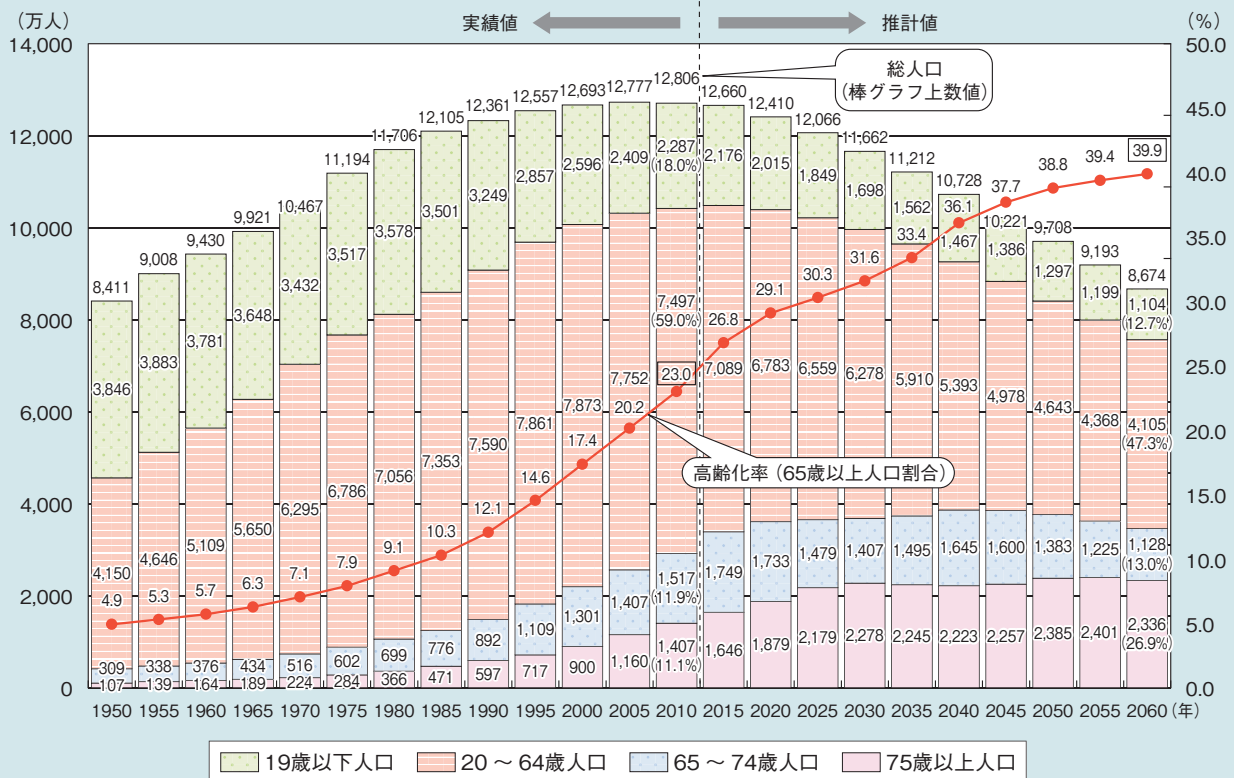
		平成23年10月1日			平成22年10月1日		
		総数	男	女	総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,780	6,218	6,562	12,806	6,233	6,573
	高齢者人口（65歳以上）	2,975	1,268	1,707	2,925	1,247	1,678
	65～74歳人口（前期高齢者）	1,504	709	795	1,517	715	803
	75歳以上人口（後期高齢者）	1,471	559	912	1,407	532	875
	生産年齢人口（15～64歳）	8,134	4,095	4,039	8,103	4,068	4,035
	年少人口（0～14歳）	1,671	855	815	1,680	860	820
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	高齢者人口（高齢化率）	23.3	20.4	26.0	23.0	20.2	25.7
	65～74歳人口	11.8	11.4	12.1	11.9	11.6	12.3
	75歳以上人口	11.5	9.0	13.9	11.1	8.6	13.4
	生産年齢人口	63.6	65.9	61.6	63.8	65.9	61.8
	年少人口	13.1	13.8	12.4	13.2	13.9	12.6

資料：平成23年は、総務省「人口推計」（平成23年10月1日現在）  
 平成22年は、総務省「国勢調査」（構成比の算出には分母から年齢不詳を除いている）  
 （注）「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

○平成72（2060）年には、2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上

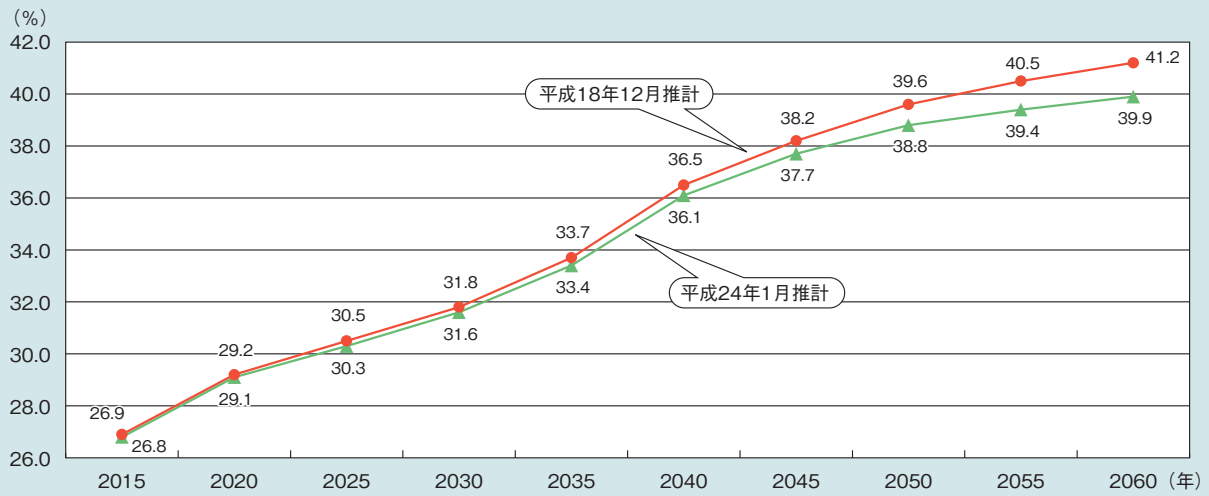
- ・今後、総人口が減少するなかで、高齢化率は上昇（図1-1-2-（1））。
- ・高齢者人口は、いわゆる「団塊の世代」（昭和22（1947）～24（1949）年に生まれた人）が65歳以上となる平成27（2015）年には3,395万人となり、その後も増加。54（2042）年以降は高齢者人口が減少に転じるが高齢化率は上昇。
- ・平成72（2060）年には高齢化率は39.9%に達し、2.5人に1人が65歳以上。
- ・平成72（2060）年には75歳以上人口が総人口の26.9%となり4人に1人が75歳以上。
- ・前回推計（平成18年12月推計）と比較して、高齢化率は低下（図1-1-2-（2））。

図1-1-2-（1） 高齢化の推移と将来推計



資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果  
 (注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む

図1-1-2-(2) 高齢化率の前回将来推計との比較

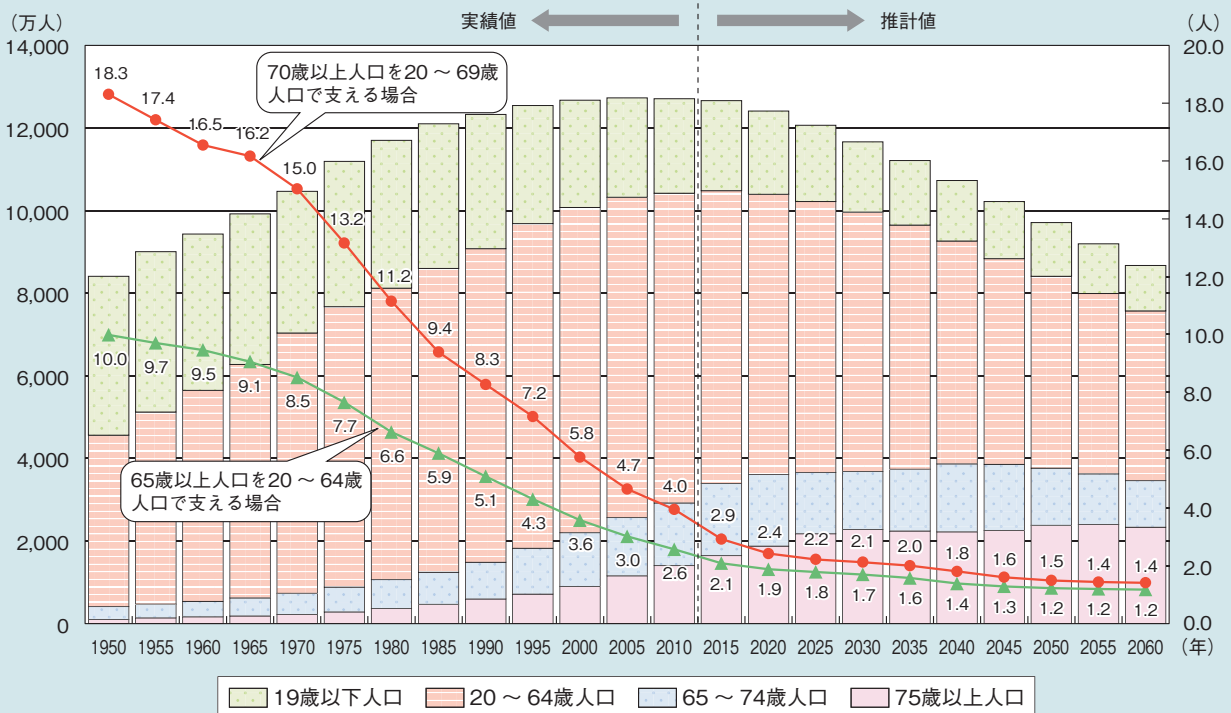


資料：2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果及び「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

○現役世代1.2人で1人の高齢者を支える社会の到来

- ・平成22（2010）年には、高齢者1人に対して現役世代（20～64歳）2.6人（図1-1-3）。
- ・平成72（2060）年には、高齢者1人に対して現役世代（20～64歳）1.2人。

図1-1-3 高齢世代人口の比率

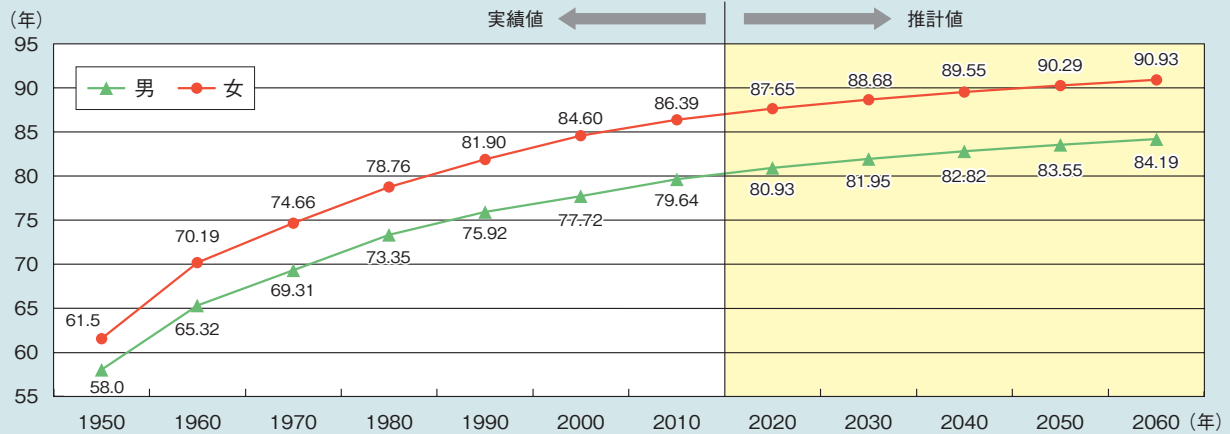


資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

### ○男性84.19歳、女性90.93歳まで生きられる

- ・平均寿命は、平成22（2010）年現在、男性79.64年、女性86.39年（図1-1-4）。
- ・平成72（2060）年には、男性84.19年、女性90.93年となり、女性の平均寿命は90年を超える。

図1-1-4 平均寿命の推移と将来推計



資料：1950年及び2010年は厚生労働省「簡易生命表」、1960年から2000年までは厚生労働省「完全生命表」、2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果  
 （注）1970年以前は沖縄県を除く値である。0歳の平均余命が「平均寿命」である。

### ○地域別にみた高齢化

- ・平成23（2011）年現在の高齢化率は、最も高い秋田県で29.7%、最も低い沖縄県で17.3%となっている（表1-1-5）。

表1-1-5 都道府県別高齢化率の推移

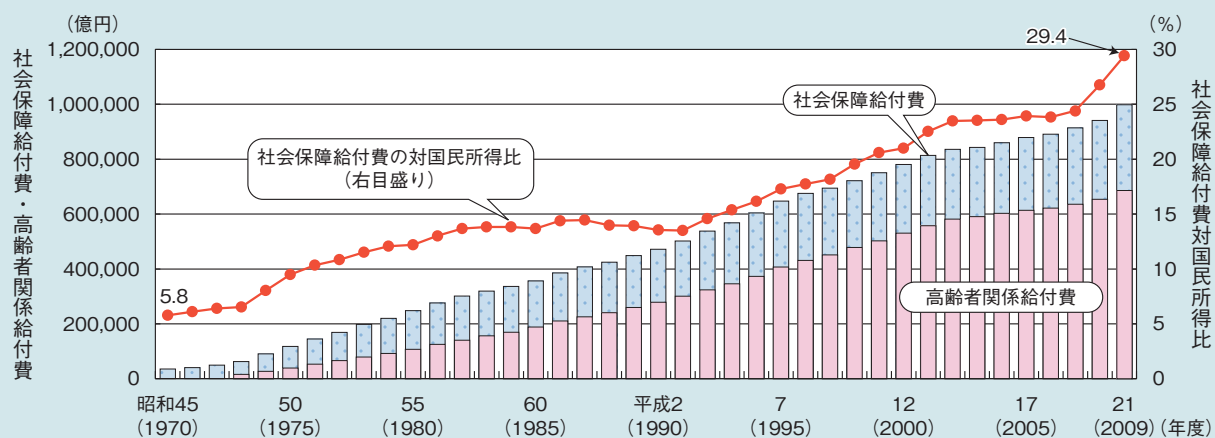
	平成23年 (2011)			平成47年 (2035)	高齢化率の伸び (ポイント)
	総人口(千人)	65歳以上人口 (千人)	高齢化率(%)	高齢化率(%)	
北海道	5,486	1,382	25.2	37.4	12.2
青森県	1,363	355	26.1	38.2	12.1
岩手県	1,314	358	27.3	37.5	10.2
宮城県	2,327	520	22.4	33.8	11.4
秋田県	1,075	319	29.7	41.0	11.3
山形県	1,161	321	27.6	36.3	8.7
福島県	1,990	502	25.2	35.5	10.3
茨城県	2,958	676	22.9	35.2	12.3
栃木県	2,000	447	22.3	33.6	11.3
群馬県	2,001	479	23.9	33.9	10.0
埼玉県	7,207	1,506	20.9	33.8	12.9
千葉県	6,214	1,370	22.0	34.2	12.2
東京都	13,196	2,713	20.6	30.7	10.1
神奈川県	9,058	1,865	20.6	31.9	11.3
新潟県	2,362	624	26.4	36.6	10.2
富山県	1,088	287	26.4	36.0	9.6
石川県	1,166	279	23.9	34.5	10.6
福井県	803	202	25.2	34.0	8.8
山梨県	857	213	24.8	35.3	10.5
長野県	2,142	571	26.7	35.6	8.9
岐阜県	2,071	504	24.3	33.6	9.3
静岡県	3,749	903	24.1	34.6	10.5
愛知県	7,416	1,530	20.6	29.7	9.1
三重県	1,847	451	24.4	33.5	9.1
滋賀県	1,414	295	20.9	29.9	9.0
京都府	2,632	624	23.7	32.3	8.6
大阪府	8,861	2,012	22.7	33.3	10.6
兵庫県	5,582	1,304	23.4	34.3	10.9
奈良県	1,396	340	24.4	36.8	12.4
和歌山県	995	274	27.5	38.6	11.1
鳥取県	585	155	26.4	34.5	8.1
島根県	712	207	29.1	37.3	8.2
岡山県	1,941	493	25.4	33.4	8.0
広島県	2,855	693	24.3	34.5	10.2
山口県	1,442	407	28.2	37.4	9.2
徳島県	780	212	27.1	36.7	9.6
香川県	992	258	26.1	35.9	9.8
愛媛県	1,423	382	26.9	37.0	10.1
高知県	758	220	29.0	37.4	8.4
福岡県	5,079	1,144	22.5	32.6	10.1
佐賀県	847	209	24.7	34.2	9.5
長崎県	1,417	371	26.2	37.4	11.2
熊本県	1,813	467	25.8	35.6	9.8
大分県	1,191	319	26.8	35.6	8.8
宮崎県	1,131	293	25.9	36.9	11.0
鹿児島県	1,699	450	26.5	35.9	9.4
沖縄県	1,401	242	17.3	27.7	10.4

資料：平成23年は総務省「人口推計」、平成47年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口（平成19年5月推計）」

## ○過去最高となった社会保障給付費

- ・ 社会保障給付費全体について、平成21（2009）年度は99兆8,507億円となり過去最高の水準（図1-1-6）。
- ・ 国民所得に占める割合は、昭和45（1970）年度の5.8%から29.4%に上昇。
- ・ 社会保障給付費のうち、高齢者関係給付費について、平成21（2009）年度は68兆6,422億円、社会保障給付費に占める割合は68.7%。

図1-1-6 社会保障給付費の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「平成21年度社会保障給付費」

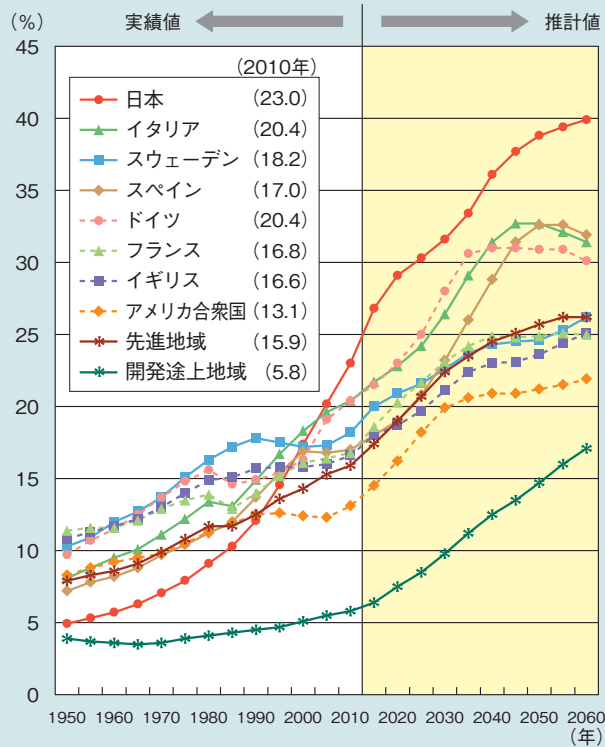
(注) 高齢者関係給付費とは、年金保険給付費、高齢者医療給付費、老人福祉サービス給付費及び高齢雇用継続給付費を合わせたもので昭和48年度から集計

○我が国は世界のどの国も経験したことの無い高齢社会を迎えている

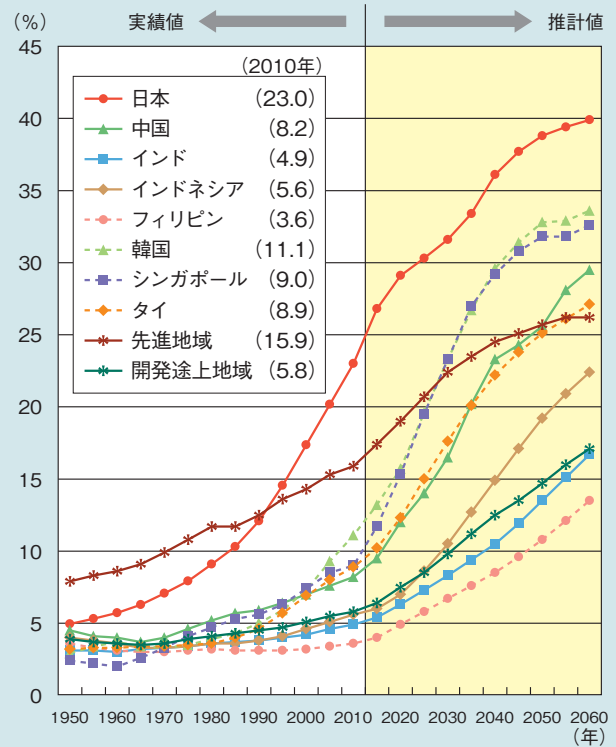
- ・諸外国と比較すると、我が国は、世界のどの国もこれまで経験したことの無い高齢社会を迎えている（図1-1-7）。

図1-1-7 世界の高齢化率の推移

1. 欧米



2. アジア



資料：UN, World Population Prospects : The 2010 Revision

ただし日本は、2010年までは総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。

(注) 先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。

開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。